

「てんかんとは、子供の病気だ。意識を失って倒れ、けいれんを起こすもの」と思っている人が多い。

先週のコラムのK子さん(71)の夫も、そのひとりである。Kさんは、半年前から時々、数分ほど頭が真っ白になりようになった。倒れはしない。けいれんも起こさないという。が、状況を詳しく知りたくて、夫に来てもらったのである。

でも、彼は、「そういえば、時々ポーとっしていることがある」と答えるだけである。口をもへもへさせたし、手の無意味な動きは見たことはないと言う。だが、頭のMRI(磁気共鳴画像)には、側頭葉に脳挫傷の痕がみられる。脳波でも異常がみられる。

となれば、Kさんの発作には、「てんかん」を疑うべきだ。と話す。彼の顔つきが急変したのである。「子供じゃあるまいし。てんかんとは、人聞きの悪い。このヤブ医者が」とでも言っただけである。

そうだ。てんかんといえば、子供の病気と思われがちなのである。だが、実は、高齢者では、加齢に伴っててんかんの発作が多くなるのである。「今や、子供より高齢者のほうが、てんかんを起こしやすい」とか、「高齢者100人のうち、1〜2人はてんかん」という報告もあるほどである。高齢者のてんかんは、脳卒中の後遺症、東部外傷、加齢に伴う脳の異常、認知症などが原因になりやすい。てんかんが多くなるのは、脳のキズが加齢とともに増えるからだろうか。

そして、高齢者のてんかんでは、けいれんではなく、一時的に記憶を失くす発作が多くなるのも特徴だ。ちょっとポーとす。反応がおかしいというだけで、周囲に気付かれないこともある。だから、高齢者が、いつもと違う行動をとり、まして繰り返すようなら、まずは「てんかん」を疑うことを忘れてはいけない。

(石黒修三「いしほろクリニック・脳神

経外科医」117北國新聞掲載)

